



# 2019年3月期 第2四半期 決算説明会

パイオニア株式会社  
代表取締役 兼 社長執行役員  
森谷 浩一

2018年11月7日

## 本日の発表のポイント

### 1. 2019年3月期 第2四半期 連結決算実績:

- 第2四半期・上期ともに、売上は、カーエレクトロニクスの市販・OEMでの減少により、前年同期から減収。さらに、減価償却費の増加や為替影響等により、営業損失を計上
- 当期純損益は、第2四半期は営業損益の悪化により、上期は営業損益の悪化や特別損失の計上により、前年同期から損失が拡大

### 2. 2019年3月期 連結業績予想:

- 売上は、カーエレクトロニクス事業における新興国の市況低迷の影響や、一部子会社株式の譲渡による減収を反映し、3,500億円に下方修正
- 営業損益は、売上減の影響を、減価償却費の減少や経費節減で対応し、前回予想の50億円の損失を据え置き。当期純損益予想の開示は引き続き留保

### 3. 3D-LiDARセンサー開発の進捗

### 4. スポンサー支援の進捗について

## 本日の説明

1. 2019年3月期 第2四半期連結決算
2. 2019年3月期 連結業績予想
3. 3D-LiDARセンサー開発の進捗
4. スポンサー支援の進捗について

当プレゼンテーション中、当社の現在の計画、概算、戦略、判断などの記述、また、その他すでに確定した事実以外の記述は、当社の将来の業績の見通しに関するものです。これらの記述は、現在入手可能な情報による当社経営陣の仮定および判断に基づいています。実際の業績は、様々な重要なリスク要因や不確定要素によって、見通しの中で説明されている業績から大きく異なる可能性もありますので、これらの記述に過度に依存されないようお願いします。また、当社は新たな情報や将来の事象等の結果としてこれらの記述を常に見直すとは限らず、当社はこのような義務を負うものではありません。当社に影響を与え得るリスクや不確定要素には、(1)当社が関わる市場の一般的な経済情勢、特に消費動向や当社が製品等を供給する業界の動向、(2)為替レート、特に当社が大きな売上や資産、負債を計上する米ドル、ユーロ、その他の通貨と円との為替レート、(3)競争の激しい市場において、顧客から受け入れられる製品を継続して設計、開発する能力、(4)事業戦略を成功させる能力、(5)他社との合併、提携またはその他事業関係の成功、(6)資金調達能力、(7)研究開発や設備投資に十分な経営資源を継続して投下する能力、(8)製品に関する品質管理能力、(9)生産に必要な重要部品を継続して調達し得る状況、(10)偶発事象の結果などが含まれますが、これらに限られるものではありません。

---

# 1. 2019年3月期 第2四半期連結決算

---

## 2019年3月期 第2四半期・上期：連結業績概要

(単位:億円)

	第2四半期			上期		
	前年同期	当四半期	前年同期比	前年同期	当期	前年同期比
売上高	929	871	93.8%	1,762	1,709	97.0%
営業損益	23	-1	-	20	-17	-
経常損益	9	-16	-	-4	-36	-
当期純損益*	-6	-33	-	-26	-99	-

1株当たり純損益*	-1.67円	-8.64円	-6.97円	-7.21円	-26.26円	-19.05円
ROE	-3.0%	-17.6%	-14.6%	-6.4%	-25.7%	-19.3%
1株当たり純資産	226.18円	195.93円	-30.25円			
ROA	-0.9%	-4.7%	-3.8%	-1.9%	-7.1%	-5.2%

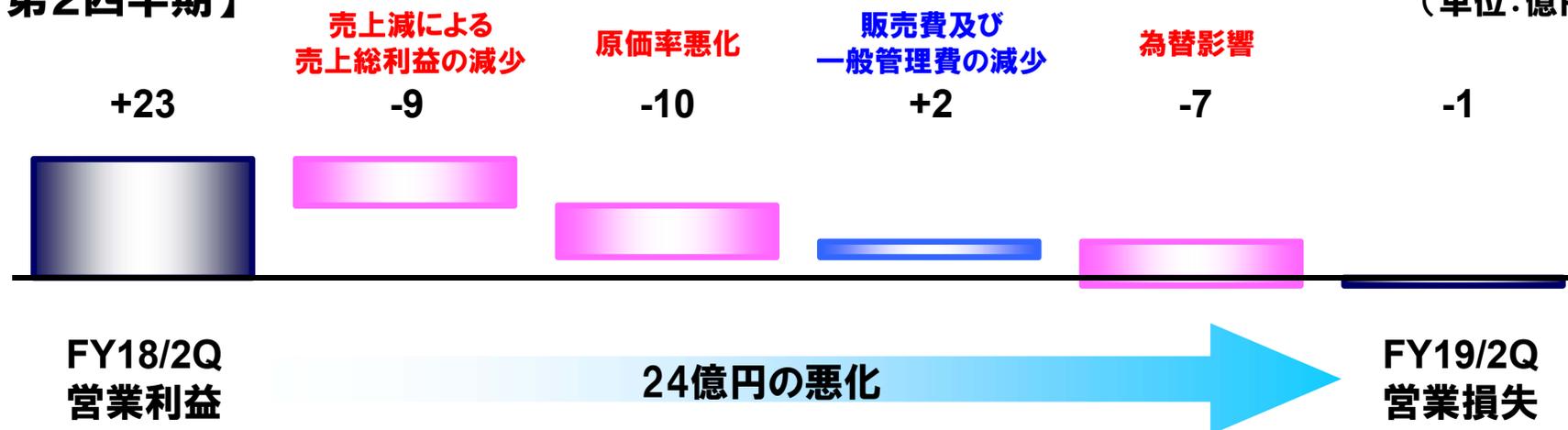
\* 親会社株主に帰属する当期純損益

為替 平均レート	1米ドル	111.03円	111.46円	+0.4%	111.06円	110.26円	-0.7%
	1ユーロ	130.38円	129.63円	-0.6%	126.29円	129.85円	+2.7%

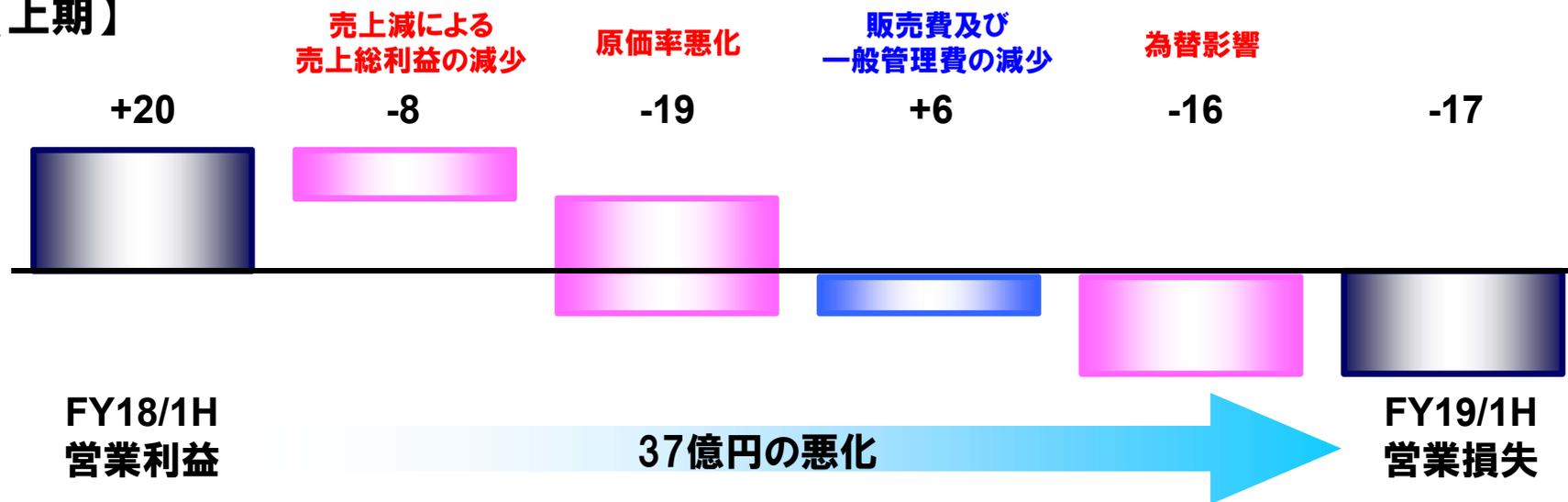
## 2019年3月期 第2四半期・上期： 営業損益増減要因

### 【第2四半期】

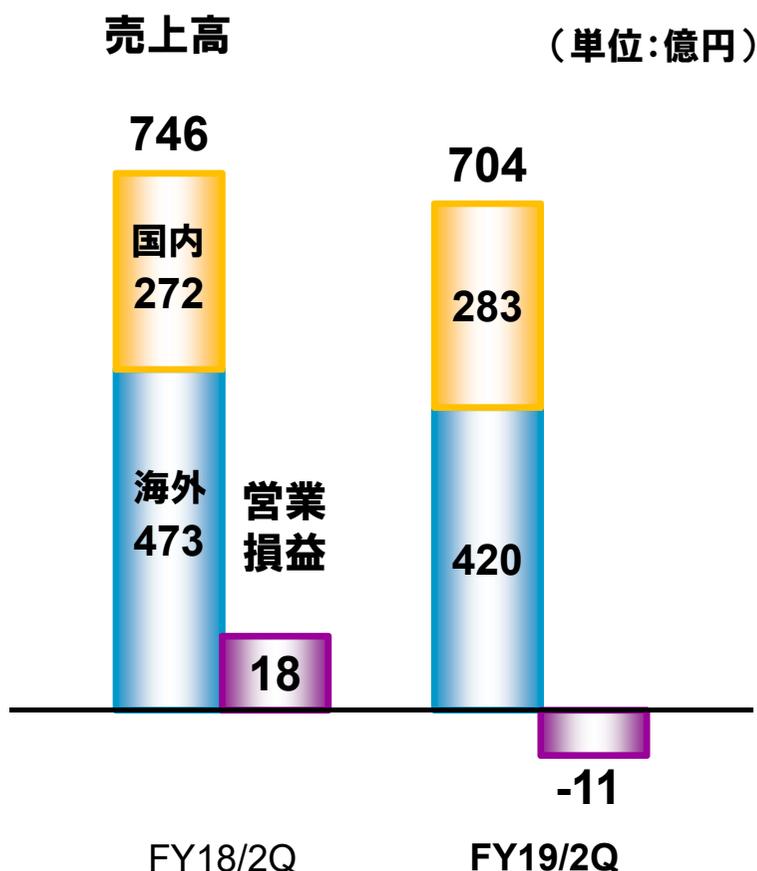
(単位:億円)



### 【上期】



## 2019年3月期 第2四半期：カーエレクトロニクス



### < 売上高 > OEM比率 58% (前年同期 57%)

前年同期比	94% (国内 104%、海外 89%(現地通貨ベース 91%))
増収要因	テレマティクスサービス、地図ソフト
減収要因	市販カーオーディオ、OEMカーナビゲーションシステム、市販カーナビゲーションシステム

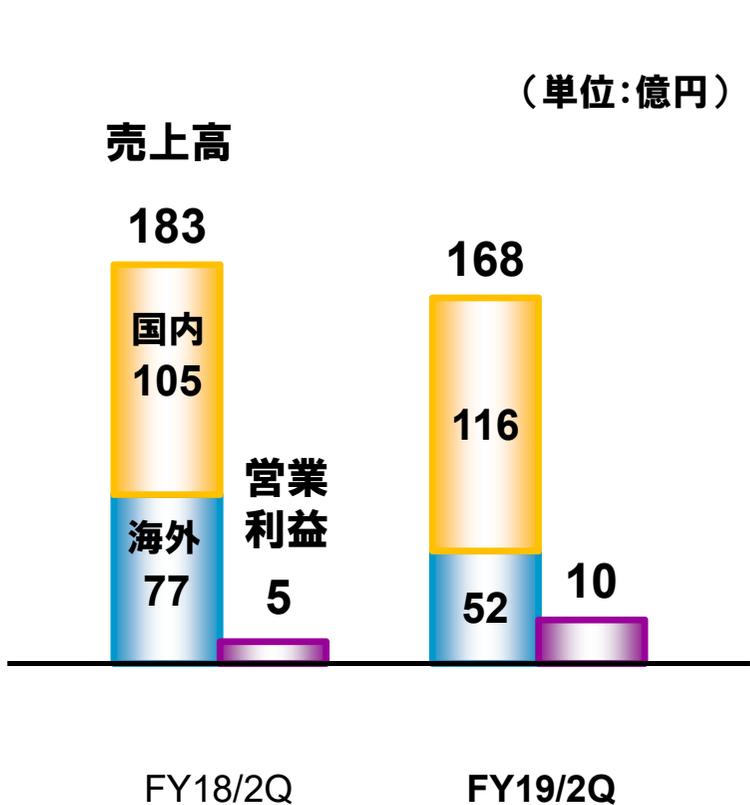
### < 営業損益 >

前年同期比	30億円の悪化
良化要因	特になし
悪化要因	原価率の悪化 為替影響 売上減による売上総利益の減少 販売費及び一般管理費の増加

※ 当セグメントに含まれる主要製品およびサービス：  
カーナビゲーションシステム、カーステレオ、カーAVシステム、  
カースピーカー、テレマティクスサービス、地図ソフト

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

## 2019年3月期 第2四半期：その他



### < 売上高 >

前年同期比	92% (国内 110%、海外 67%(現地通貨ベース 67%))
増収要因	DJ機器(生産・販売受託)
減収要因	ホームAV、FA機器(一部事業譲渡)

### < 営業利益 >

前年同期比	6億円の良化
良化要因	原価率の良化 販売費及び一般管理費の減少
悪化要因	売上減による売上総利益の減少

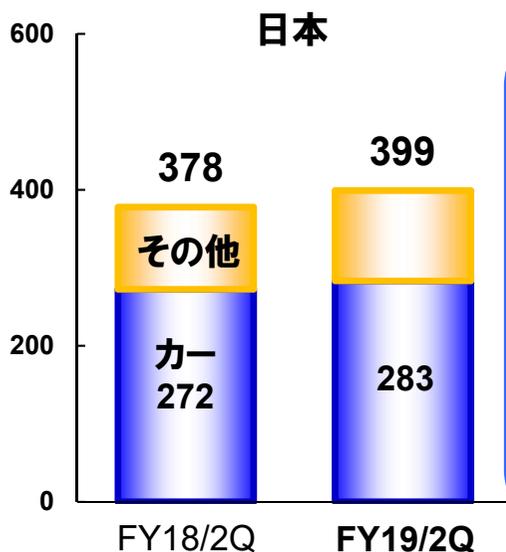
※ 当セグメントに含まれる主要製品:  
光ディスクドライブ関連製品、FA機器、電子部品、  
有機ELディスプレイ、DJ機器(生産・販売受託)、ホームAV

- \* 1. 2018年6月に、電子部品関連のFA機器事業(株式会社パイオニアFA)を譲渡しました。
- \* 2. 2018年8月に、DJ機器の生産工場(マレーシア)を譲渡しました。

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

## 2019年3月期 第2四半期：地域別売上高

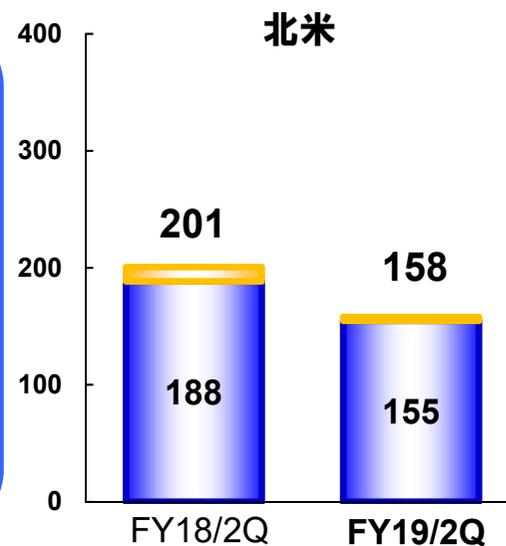
(単位:億円)



**前年同期比**  
106%

**増収要因**  
テレマティクスサービス  
OEMカーオーディオ  
FA機器  
地図ソフト

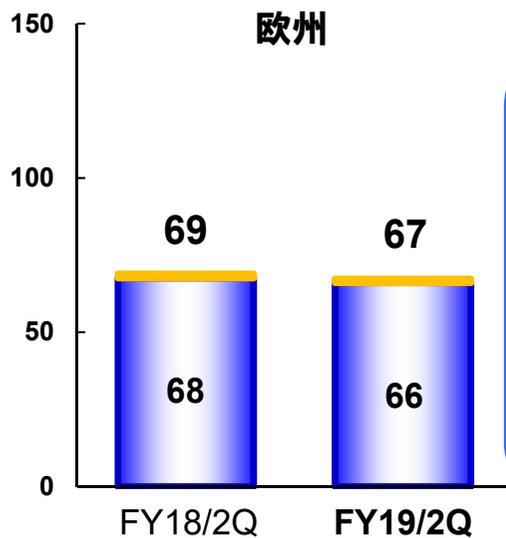
**減収要因**  
市販カーナビゲーションシステム  
OEMカーナビゲーションシステム



**前年同期比**  
円ベース: 79%  
現地通貨ベース: 78%

**増収要因**  
特になし

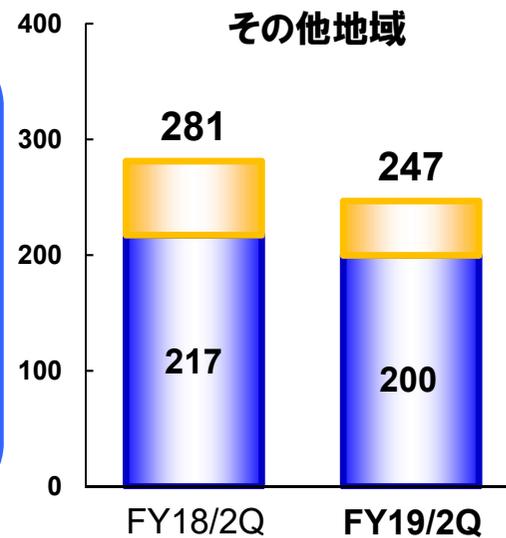
**減収要因**  
OEMカーオーディオ  
OEMカーナビゲーションシステム  
FA機器



**前年同期比**  
円ベース: 98%  
現地通貨ベース: 100%

**増収要因**  
OEMカーオーディオ

**減収要因**  
市販カーオーディオ



**前年同期比**  
円ベース: 88%  
現地通貨ベース: 91%

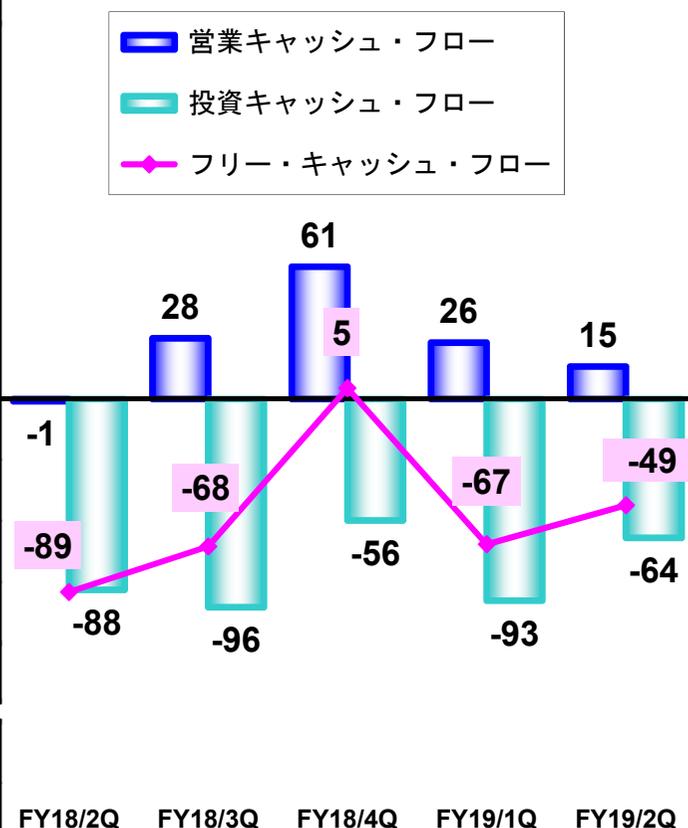
**増収要因**  
OEMカーオーディオ  
DJ機器

**減収要因**  
市販カーオーディオ  
ホームAV  
FA機器

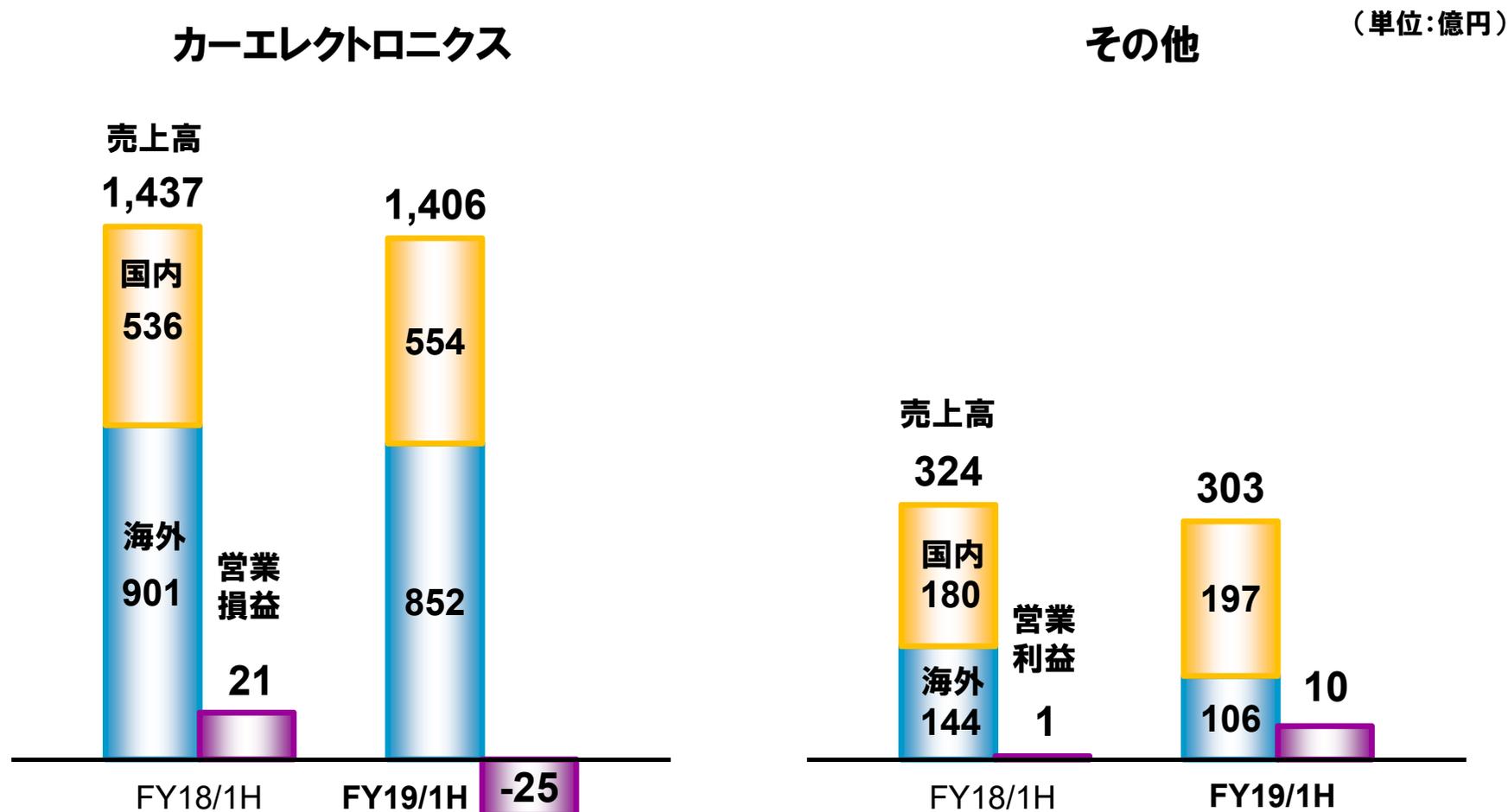
## 2019年3月期 第2四半期・上期：連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	第2四半期		上期	
	前年同期	当四半期	前年同期	当期
税金等調整前当期純損益	0	-27	-15	-83
減価償却費	51	65	96	121
売上債権の増減	-83	-19	32	73
棚卸資産の増減	-9	-5	-42	-39
仕入債務の増減	26	-20	7	-52
未払費用の増減	30	22	-1	15
その他	-16	-2	-7	6
営業キャッシュ・フロー	-1	15	70	41
投資キャッシュ・フロー	-88	-64	-180	-157
財務キャッシュ・フロー	39	37	54	39
現金・現金同等物の換算差額	5	1	8	1
フリー・キャッシュ・フロー	-89	-49	-110	-116
現金・現金同等物の増減	-45	-11	-48	-76
現金・現金同等物の残高	336	280		
NETキャッシュ残高	-92	-252		



## 2019年3月期 上期: セグメント別売上高・営業損益



注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

---

## 2. 2019年3月期 連結業績予想

---

## 2019年3月期：通期連結業績予想

(単位:億円)

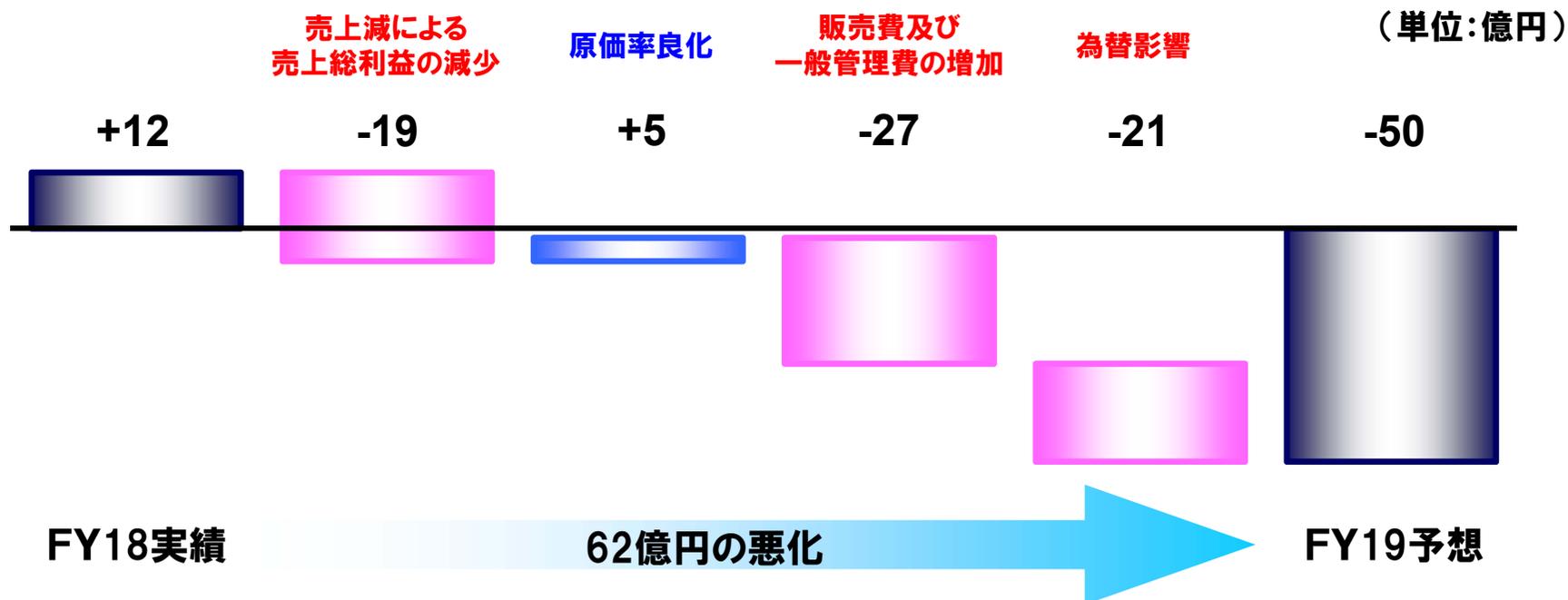
	FY18実績	FY19 前回予想 (参考)	FY19 今回予想	前期比
売上高	3,654	3,800	3,500	95.8%
営業損益	12	-50	-50	-

当期純損益の予想の開示は、現在、スポンサー支援協議を進めていることから、OEMを含む全社経営改善施策の影響額が確定するまで留保する。

為替 前提レート	1米ドル	110.85円	109.77円	110.13円	-0.6%
	1ユーロ	129.70円	130.02円	129.92円	+0.2%

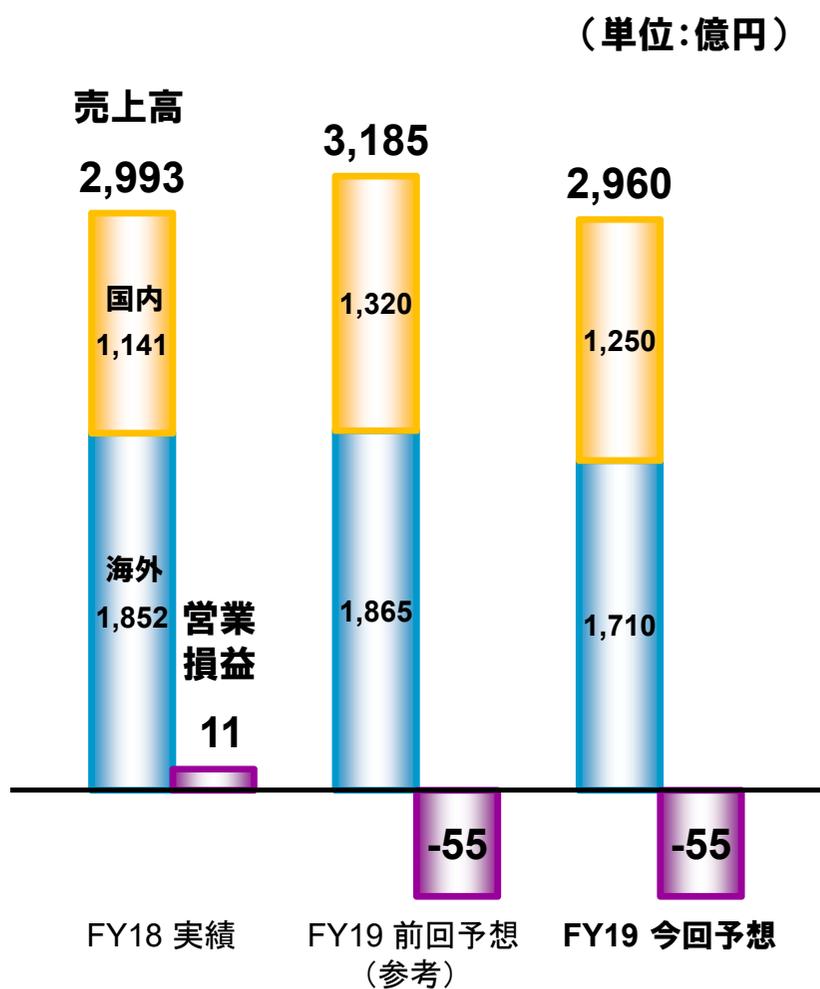
- 注) 1. 残り6ヵ月間の予想レートは、1米ドルは110円、1ユーロは130円を前提にしています。  
 2. 1円の円高インパクト(残り6ヵ月間)は、売上高では、USドルは▲約7.9億円、ユーロは▲約1.0億円、  
 営業損益では、米ドルは+約0.8億円、ユーロは▲約0.7億円。

## 2019年3月期予想：営業損益増減要因



- FA機器やDJ機器関連の一部子会社株式の譲渡等により売上が減少することから、売上総利益は減少
- カーOEMの減価償却費は増加するが、経費節減により、原価率は良化
- 自動運転に関わる開発費の増加等により、販売費及び一般管理費は増加
- 新興国通貨の変動により為替影響は悪化

## 2019年3月期予想：カーエレクトロニクス



### < 売上高 > OEM比率 57% (前期 58%)

前期比	99% (国内 110%、海外 92% (現地通貨ベース 95%))
増収要因	テレマティクスサービス、OEMカーオーディオ、地図ソフト
減収要因	市販カーオーディオ、OEMカーナビゲーションシステム
対前回予想	93% (国内 95%、海外 92% (現地通貨ベース 93%))
減収要因	市販カーオーディオ、OEMカーナビゲーションシステム、 OEMカーオーディオ、市販カーナビゲーションシステム

### < 営業損益 >

前期比	66億円の悪化
良化要因	売上増による売上総利益の増加
悪化要因	販売費及び一般管理費の増加、 為替影響、原価率の悪化
対前回予想	変化なし
良化要因	販売費及び一般管理費の減少、原価率の良化
悪化要因	売上減による売上総利益の減少、為替影響

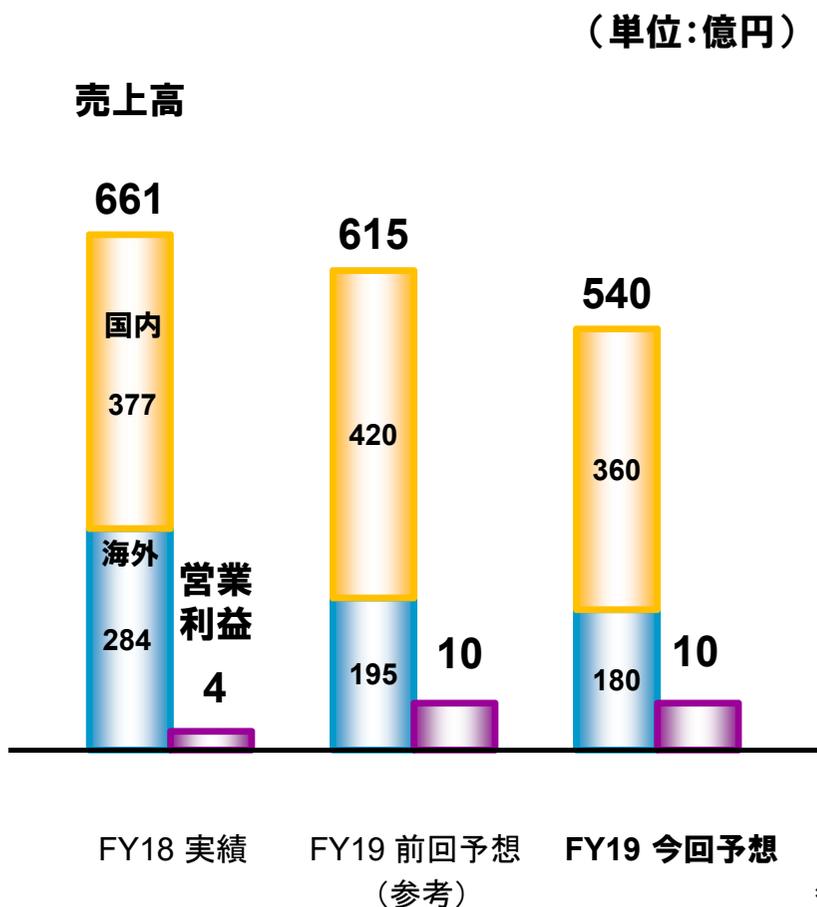
### < 出荷台数 >

(単位:千台)

	FY18 実績	FY19 前回予想 (参考)	FY19 今回予想
市販カーナビ	559	600	545
市販カーCD	5,324	5,600	4,350
市販カーAV	1,486	1,900	1,760

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

## 2019年3月期予想：その他



### < 売上高 >

前期比	82% (国内 95%、海外 63%(現地通貨ベース 64%))
増収要因	光ディスクドライブ
減収要因	FA機器(子会社譲渡*1*3)、 DJ機器(生産受託縮小*2)、ホームAV
対前回予想	88% (国内 86%、海外 92%(現地通貨ベース 93%))
増収要因	光ディスクドライブ
減収要因	DJ機器(生産受託縮小*2)、 FA機器(子会社譲渡*3)、ホームAV

### < 営業利益 >

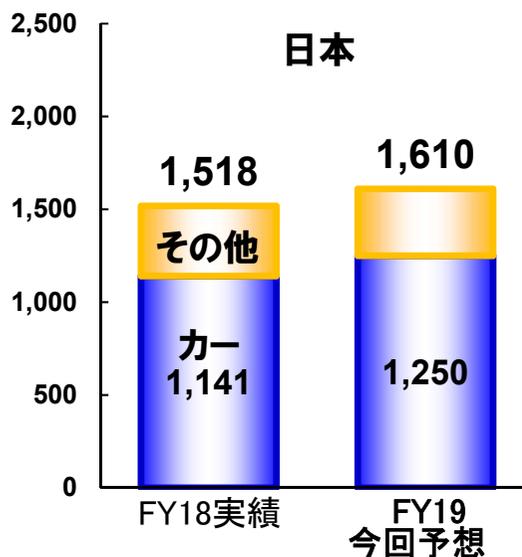
前期比	6億円の良化
良化要因	原価率の良化、販売費及び一般管理費の減少
悪化要因	売上減による売上総利益の減少、為替影響
対前回予想	変化なし
良化要因	原価率の良化、販売費及び一般管理費の減少、 為替影響
悪化要因	売上減による売上総利益の減少

- \* 1. 2018年6月に、電子部品関連のFA機器事業(株式会社パイオニアFA)を譲渡しました。
- \* 2. 2018年8月に、DJ機器の生産工場(マレーシア)を譲渡しました。
- \* 3. 2018年12月に、自動車関連のFA機器事業(東北パイオニアEG株式会社)を譲渡する予定です。

注) セグメント別営業損益は、セグメント間取引消去前の金額を表示しています。

## 2019年3月期予想：地域別売上高

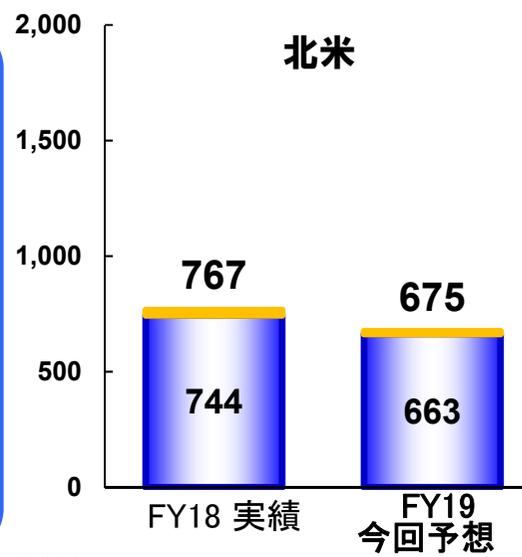
(単位:億円)



**前期比**  
106%

**増収要因**  
テレマティクスサービス  
OEMカーオーディオ  
光ディスクドライブ  
市販カーナビゲーションシステム  
地図ソフト

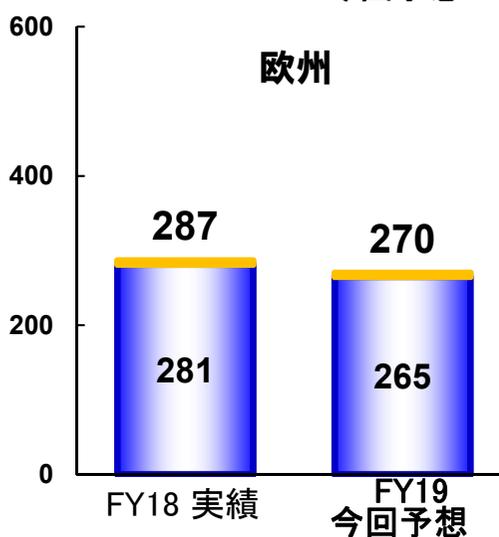
**減収要因**  
DJ機器  
FA機器



**前期比**  
円ベース: 88%  
現地通貨ベース: 89%

**増収要因**  
市販カーオーディオ

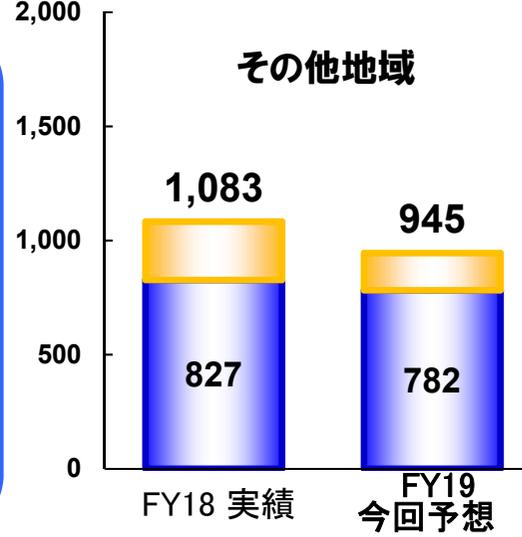
**減収要因**  
OEMカーナビゲーションシステム  
OEMカーオーディオ  
FA機器



**前期比**  
円ベース: 94%  
現地通貨ベース: 96%

**増収要因**  
OEMカーオーディオ

**減収要因**  
市販カーオーディオ



**前期比**  
円ベース: 87%  
現地通貨ベース: 91%

**増収要因**  
OEMカーオーディオ  
DJ機器

**減収要因**  
ホームAV  
市販カーオーディオ  
FA機器  
光ディスクドライブ

## 2019年3月期予想：研究開発費、減価償却費、棚卸資産

(単位：億円)

	FY18実績	FY19前回予想 (参考)	FY19今回予想
研究開発費 (売上高比率)	259 (7.1%)	300 (7.9%)	285 (8.1%)
減価償却費	206	290	250
棚卸資産	501	545	460

---

## 3. 3D-LiDARセンサー開発の進捗

---

## 3D-LiDARセンサー開発の進捗

### ① 2018年モデル(3種4モデル)を9月下旬から順次出荷開始

### ② ルネサス エレクトロニクス株式会社のデモカーに搭載



当社3D-LiDARセンサーが搭載された  
コンパクトデモカー

- ルネサス社が開発を進める車載情報システム用SoC(※)「R-Car」に対応
- コンパクトデモカー“Etoile (エトワール)”に前方障害物検知センサーとして搭載され、自動駐車や自動運転に貢献

※System-on-Chip: ある装置やシステムの動作に必要な機能のすべてを、一つの半導体チップに実装する方式

### ③ シンガポールにて実証実験を開始



実証実験用のシャトルバスには、当社3D-LiDARセンサーが4つ搭載され、高精度の物体認識と自車位置推定を行う

- シンガポールのMooVita Pte Ltdと、シャトルバスを使った実証実験をシンガポールにて開始
- 両社は本実証実験を通じて、自動運転レベル4のサービス商用化を目指す

---

## 4. スポンサー支援の進捗について

---

## 現状に至った背景について

### 事業面

カーエレクトロニクスOEM事業における  
当初想定を大幅に上回るソフトウェア開発負担

ソフトウェア投資  
負担増によるキャッ  
シュ・フローの悪化

減価償却費の大幅  
増加によるOEM  
事業での損失拡大

OEMへのリソース  
移管による市販製  
品の開発遅れ

カーエレクトロニクス  
市販事業における  
既存ビジネスの  
収益性の低下

### 経営面

事業環境の変化への対応の遅れ

- 財務基盤の早期立て直しが急務
- OEM事業だけでなく全社的に事業・体制の見直しが必要
- 経営体制の見直しを含めたガバナンスの強化が必要

## 課題の解決に向けて – スポンサー支援の進捗状況

スポンサー支援下で事業・財務面での課題の早期かつ抜本的な解決を図ることが、安定的な事業継続にとっての最善の選択肢と判断

9月12日      ベアリング・プライベート・エクイティ・アジアグループ  
とスポンサー支援に関する基本合意を締結

正式契約に向けて検討・協議を継続中  
決定次第、速やかに発表予定

*Pioneer*